

今、この人に Interview

いんたびゅう

滋賀で起業!

出稼ぎのつもりで来た日本。懐かしい味のパン作りが当たって、経営者に。オリジナルブランドのパンを他府県にも広げていきたい。

合資会社 コンフェルパン 代表

北川アルビーノ厚博さん

▶北川さんの作るパンは、給食のコッペパンのような懐かしい味。卵、バター、牛乳を使わず、アレルギーの人でも食べられるパンも作っている。



■日本に來られたきっかけは?

1986年に來日しました。滋賀の栗東にいた親戚を頼って、出稼ぎのために來たんです。はじめは清掃の仕事をして、その後電気部品の工場で約7年働きました。本当は、半年ほど働いたらブラジルに帰るつもりだったのですが、仕送りしてアパートの家賃を支払い、自分の生活費を差し引くと帰国する費用が貯まらず、ずっと日本で暮らすことになりました。

■ご家族も一緒に來日されたのですか。

出稼ぎのつもりだったので、家族はブラジルにいました。子どもは二人、当時5歳と3歳でしたが、ブラジルで日本食レストランを經營している私の母が育ててくれ、上の子は14歳で、下の子は18歳で日本に來ました。上の娘は結婚し、下の息子は今、一緒にパン工場で働いています。今は日本で再婚した妻との間に二人の子どもがいます。

■言葉や生活で不自由したことはありませんでしたか。

日系二世なので、ブラジルでも家では日本語で話していました。父の友達には日本人がたくさんいましたし、日本人学校もあり、野球もやっていました。日本人コミュニティの中にいるときは、日本と変わらない暮らしでしたね。

■どんなきっかけで、日本でパン作り始めたのですか。

工場で働いているとき、懐かしい味のパンが食べたくなって、自分のために作り始めました。仕事仲間配ったら「お金を出すから、ずっと作り続けてほしい」といわれ、しばらく働きながらパンを作って販売していたんです。そのうち「これでやっていけそうだ」と思い、会社を辞めて本気で取り組み始めました。日本に來て8年目から個人事業でパン作りを始め、2006年に合資会社を設立しました。今はブラジル人のスタッフ8人とともに頑張っています。

■ブラジルでもパン作りをしていたのですか。

ブラジルでお店を持っていました。日本のコンビニのようなお店で、中にパン屋があるという形でした。ブラジルではお店がパン職人を雇って、いくら払うからここでパンを作ってください、という形でお店を出すんです。

■パンの販売には自信がありましたか?どんなふうに販路を広げていったのですか。

自分では「このパンは本当に売れるのかな?」と思いましたが、販売してみると、飛ぶ様に売れて驚きました。ブラジル人の友達には人気でしたが、日本人の口にも合うのだと思います。最初は知り合いの人に頼んでトラックで移動販売をしてもらっていました。それが口コミで広がり、今は全国のブラジル人向けの食料品店に卸しています。

■コンフェルパンというブランドで、アリのマークが目印ですね。この名前とマークの由来は?

コンフェルパンという名前は「丁寧に飾る」という意味です。ブラジルでパン作りをしていたときから使っていた名前です。アリは小さいけどコツコツと仕事をして素晴らしい働きをするでしょう。そんなふうに働きたい、とアリをマークにしました。



■順調にきた理由は何だと思いますか。

ブラジル人が經營するもっと大きいパン工場がありましたが、2008年のリーマンショックでブラジル人が大勢解雇されて帰国したあと、パンに使う小麦粉の品質を落としたので、味が落ちたんです。私の方は、そのままの品質で作っていたので、よく売れるようになりました。状況が悪くなったときに評判が上がったんです。他のところより質の良いパンを作り続けた結果だと思います。

■コンフェルパン

栗東市大橋1丁目1-11 TEL: 077-551-4602 FAX: 077-558-5602

<滋賀県内の取扱店>道の駅草津グリーンプラザからすま、JA草津あおばな館、フォレオー里山「わくわく広場」ほか ※取扱店募集中。小売りはしておりません。

●プロフィール●

ブラジル出身。1986年に來日。電気部品工場で働くうちに、自分で食べるために作り始めたパンが「懐かしい味」と仕事仲間の中で評判になり、独立して起業。パン工場の經營を始める。栗東市商工会会員。若い人の夢を応援したいとフットサルやバレーボールのブラジル人クラブチームを支援。社会貢献も積極的に行なっている。

■日本とブラジルを比べて、驚いたことはありますか?

工場で働いていたとき、日本では社員がみんないい車に乗っていたことです。ブラジルは貧富の差が激しいので、高級車に乗っているのは社長ぐらいでした。また、それまでは人を使って仕事をしてきたので、「あれをしろ、これをしろ」と命令されて立場の違いを感じましたが、これはいい勉強になりました。

■人間関係などはどうですか?

日本人はみんなすごく真面目ですね。例えばブラジルではみんなあまり時間を守りません。相手が遅れるから自分も少し遅れていこう、と考えます。でも日本では、約束した時間の5分前には来ないと、ちゃんと商売が出来ません。このように、良いことをたくさん覚ええました。

■今後の夢は? 直売店を出すことは考えておられますか。

パン屋さんではなくメーカーを目指していきたいんです。ブラジル人向けの食料品店には広く卸していますが、一般のお店にも販路を広げたいですね。JAの草津あおばな館、草津の道の駅、フォレオー里山の「わくわく広場」などに置いてもらえるようになりました。今後も工場を大きくして販売してもらえる店舗を三重、京都で増やし、全国で販売できるようにしていきたいと思っています。